

人間と自然

福山駅家教室 中三 永井 明音

今から四千万年前、人類が地球に誕生し、文明が発生してから、人間はずっと地球を支配しています。

現代の人間は、人間は一動物であることを忘れ、自然を破壊し続けています。確かに、人間は火を使ったり、様々な物を造ることができません。地球上で人間ほど力を持った動物はいません。しかし、だから人間が暮らしやすいようにするために自然を破壊してもよい、という考えは間違っています。

人間は自分達の都合が悪くなると自然を保護しようとしめます。自分達の利益の為に動物を獲り、数が少なくなったら勝手に絶滅危惧種にして数を増やそうとしたり、工場や車の排気ガスで空気が汚染され、健康を損ねたから自然を守ろうとする等、多くの身勝手なことをしてきました。

人間は主役ではありません。地球で生きていく動物の一種です。このことに気づかないふりをして身勝手な行為を続けると、やがて人間も絶滅を迎えるかもしれませぬ。

課題(8月)

『人間は主役?』

近年、鯨やイルカを守ろうとする運動が起きています。人間が鯨を捕獲して食料にすることや、魚を大量に食べ尽くすイルカを漁師が殺すことに、反対しているのです。このように、海に住ぶ生物を保護しようとする動きが一部にあるにしろ、大半の人は、「人間こそ主役だ。自然は切り開く対象でしかない。人間は勝手に利用してよい。」と、考えています。それは、正しい考えでしょうか。あなたは、どう思いますか。



添削員からのメッセージ

石油もそのうち尽きてしまうだろうと警告されながらも、人間社会はあまり反省の色が見えません。みんな便利さのためには、労をいとまません。しかも、東日本大震災の放射能除染は遅々として進まないのに、原子力発電再開には意欲的です。不慣れた生活に戻れないのでしよう。永井さんの思いは、全く同感です。自然からのしるべ返しが、怖いですね。

(川口)

梅雨

大町教室 中三 平林 隼人

僕は雷が嫌いなくせに、雨や梅雨が好きです。みんなは雨は嫌いと言うけれど、雨が降っていると、何となく風情を感じるのです。

雨の中ほのかに香る湿った土やアスファルトの匂い、静かに聞こえる雨音や水音、空や山を覆う霧や白い雲、そして雨。これらの景色を見ると、まるで自分が違う町に一人でいるような気がするから、雨が降っていると何となく落ち着くし、ワクワクします。

それに、雨上がりの景色も好きです。雨が上がった後の景色は、いつも見る景色とは断然違います。普段の景色よりも色が鮮やかに見えます。空を見上げれば雲の切れ間に見える青空は、いつもよりきれいに見えるし、明日は晴れればいいなあ、きつと晴れるだろうなあ、と思います。

皆は梅雨なんて嫌いと言うけれど、少し違った見方をすれば、きつと梅雨を好きになれると思います。

課題(6月)

『梅雨』

寒暖をくり返す春も、約束を果たすかのように夏へ向かいます。遅ればせに咲いた花も、梅雨を待っているかに見え、自然の摂理には感嘆するばかりです。天地がもたらすものは、災いだけではありません。大地震の予報におびえながらも、何か一度に心がほごける新しい希望を期待して、梅雨の季節を迎えたいものです。ますますさらな夏に向かって、今思っている胸の内を、文章にしてみましよう。

添削員からのメッセージ

隼人君は読書や絵を描くことが好きというだけあって、表現が上手ですね。梅雨の魅力をとてもよく書けています。私たちは毎日を忙しく過ごしてきているので、雨の日に落ち着くことも大切ですよ。少し違った見方は作文にとっても役立ちます。次も楽しみにしています。(岸原)

